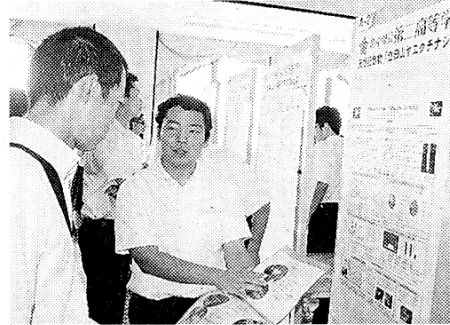


自然科学の研究成果発表会

九州の高校生470人参加

崇城大



九州の高校生による自然科学の研究成果発表会「サイエンスインターハイ」（崇城大主催）が26日、熊本市西区の崇城大であり、写真、長崎を除く九州各県の15高校の科学部などから約470人が参加した。

日ごろの研究成果を発表し、学び合う機会にしようと同大が毎年開催しており、今年で6回目。県内からは第二、熊本北、宇土、玉名各高校が参加した。

各校は「雑草から水素を発生させる」「ゴムの分解と再利用」「じゃんけんの勝率を上げる」などさまざまなテーマの研究成果を一枚の紙にまとめ、審査員を務める同大教授らに説明した。同大の中山峰男学長は「人類に貢献できるよう素晴らしい科学者になってほしい」とエールを送っていた。

県内の高校では、宇土高

の「副実像の出現位置の数式化に成功」が準グランプリ賞、第二高の「特定外来種スパルティナ属の効果的駆除方法を探るⅢ」がナノサイエンス学科賞をそれぞれ受賞した。（渡辺晋作）